

令和6年度
第1学年



授業シラバス 年間指導計画

国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、
技術家庭(技術分野・家庭分野)、英語

道徳、サイエンス

教科名		年間授業時数	学年
国語		175	1
授業形態		指導者名	
一斉授業		景山 真基子・平井 敬貴	

教科書（発行所）	新しい国語（東京書籍）・中学書写1・2・3年（光村図書）		
教科書以外の教材（発行所）	中学必修テキスト 単元別漢字1 ウイニングPLUS中学校問題集国語1 意味から学ぶ頻出漢字3000 国語便覧	(文理) (秀学社) (好学出版) (第一学習社) (浜島書店)	

目 標	国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。		
学習のねらい	<p>○知識及び技能</p> <p>・社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。</p> <p>○思考力、判断力、表現力等</p> <p>・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の学習を通して、筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにすることができるようにする。</p> <p>○学びに向かう力、人間性等</p> <p>・言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。</p>		
定期考査	出題方針	教科書の内容と文法ノートの内容を中心に出題する。	
	範囲 (予定)	第2回考査	「風の五線譜」「扉の詩」「話し方はどうかな」「飛べ かもめ」 「オオカミを見る目」 「詩の心 発見の喜び」「さんきち」「碑」「話を聞いて質問しよう」 「調べて分かったことを伝えよう」
		第3回考査	「月夜の浜辺」「私のタンポポ研究」「移り行く浦島太郎物語」「伊曾保物語」 「根拠を明確にして書こう」「音声の働きや仕組み」
		第4回考査	「わたしの中にも」「少年の日の思い出」「風を受けて走れ」「竹取物語」 「中心を明確にして話そう」「漢字の部首」
		年度末考査	「矛盾」「トロッコ」「話し合いで理解を深めよう」「ニュースの見方を考えよう」 「漢字の成り立ち」
評価の観点・ 評価の方法	<p>○評価の観点は国語の「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3項目とする。</p> <p>○具体的な評価は、定期考査、授業中での考察、ノート、小テスト、提出した課題の内容などを適切に活用して総合的に行う。</p>		
先生から アドバイス (予習・復習の方法、 授業の受け方、 ノートの取り方など)	<p>毎日の漢字テストに粘り強く取り組み、言葉の力の基礎を身につけていきましょう。予習で教科書を読み、わからない語句や難しい表現をチェックし、辞書などで確かめ、ノートに整理してみましょう。また、各教材末に置かれている「学びの扉」や授業中に配布されるプリントの問題を考えてみましょう。授業中の要点・板書事項をノートに書き写すだけではなく、授業中の他の仲間の発言にも注意して、ノートに残すようにすると、自分の考えを広げることができます。</p> <p>復習として、その日のうちに再度、教科書やノートを確かめ、メモなどの走り書きをきちんと整理しておく、授業の内容を定着させることができます。古典分野では、覚えなければならない学習事項が多いので、予習・復習を丁寧におこないましょう。</p> <p>なお、課題として配布している問題集は、解答の根拠となる箇所を線を引くなど見える化し、答え合わせの際には解説をよく読み込み、理解を深めることを大切にしましょう。</p>		

年間授業計画表(45分授業)

学期	月	学習内容	時数	学習のポイント	
前期	4	「風の五線譜」 「扉の詩」	1	・詩の意味を捉え、読み方を工夫して音読する。	
		「話し方はどうかな」	3	・相手にとって聞き取りやすいように注意して話す。	
	5	「飛べ かもめ」	4	・人物や情景を描いた表現に注意して、作品を読み味わう。	
		「オオカミを見る目」	4	・段落の役割や段落どうしの関係に着目して文章の構成を捉え、内容を読み取る。	
	6	「詩の心 発見の喜び」	2	・詩に描かれた風景や思いを想像し、詩を音読して読み味わう。	
		「さんきち」	5	・作品から読み取ったことをもとに、想像したことをまとめる。	
		「碑」	5	・本や資料で調べ、知識を広げたり考えを深めたりする。	
		「話を聞いて質問しよう」 「調べて分かったことを伝えよう」	3 4	・メモを取ったり、質問したりしながら、話の内容を捉え、考えをまとめる。 ・調べて分かった事実や自分の考えがよく伝わるように、分かりやすい構成でレポートを書く。	
	7	「方言と共通語」 ◎「楷書を書こう」	1 4	・方言と共通語の果たす役割について理解する。 ・楷書の字形、筆づかい、行の整え方について理解する。	
《第2回考査》					
9	◎「楷書と仮名を書こう」 「月夜の浜辺」	4 2	・楷書と仮名の字形、筆づかい、行の整え方について理解する。 ・詩の中の言葉から情景や心情を捉え、リズムを感じ取りながら朗読する。		
	「私のタンポポ研究」	6	・事実から筆者がどのように考えを導いているかを捉える。		
	「移り行く浦島太郎物語」	2	・古典にはさまざまな種類の作品があることを知る。		
	「伊曾保物語」 「根拠を明確にして書こう」	6 7	・歴史的仮名遣いに注意して音読し、古文の読み方に慣れる。 ・根拠の明確さなどについて、読み手からの助言を踏まえ、自分の意見文のよい点や改善点を見いだす。		
後期	10	「音声の働きや仕組み」 《第3回考査》	1	・音声の働きや仕組みについて理解する。	
		「わたしの中にも」 「少年の日の思い出」	2 7	・詩を読んで理解したことをもとに、考えを深める。 ・作品の展開を読み取りながら、登場人物の心情の移り変わりを捉える。	
	11	「風を受けて走れ」 「竹取物語」 「中心を明確にして話そう」	2 6 6	・読んだ本を紹介し合い、知識を広げたり考えを深めたりする。 ・古典の作品に描かれた人間の心のありようについて考える。 ・話の中心を明確にし、事実と考えとの関係に注意して、構成を考える。	
		「漢字の部首」 《第4回考査》	1	・漢字の部首とその意味について理解する。	
	1	◎「行書を書こう」	4	・行書の特徴、筆づかいについて理解し、文字の大きさ、配列等に注意して書く。	
		○百人一首 「矛盾」 「トロッコ」 「話し合いで理解を深めよう」	4 7 5 6	・百人一首を通して、伝統文化を尊重する。 ・漢文特有のリズムを味わい、訓読に必要な決まりを知る。 ・作品を読み、情景描写などの表現の効果について考える。 ・話し合いの展開に注意し、お互いの発言を結び付けて、考えをまとめる。	
	2	「ニュースの見方を考えよう」	4	・ニュースを比べ、ニュースの見方について自分の考えを持つ。	
	3	「漢字の成り立ち」 《年度末考査》	1	・漢字の成り立ちについて理解し、漢字を文や文章の中で使う。	
		「そこに僕はいた」 「常識は変化する」 「学びを支える言葉の力」 「文法解説」	6 5 6	・場面の展開や人物の描写を捉える。 ・論理の展開を捉え、筆者の指摘を理解する。 ・言語事項や文法について理解を深める。	
	通年	演習	39	「文法ノート」の解説を読み、言葉の単位・文の成分等について学習する。	
			総時間数	175	

教科名		年間授業時数	学年
社会科		136.5	1
授業形態		指導者名	
前期：一斉授業 後期：一斉授業		長谷川 禅	

教科書（発行所）	中学生の地理/地図帳（帝国書院）新しい社会歴史（東京書籍）		
教科書以外の教材（発行所）	実力練成テキスト地理（文理）地理ワーク（学宝社）	実力練成テキスト歴史（文理）歴史ワーク（学宝社）	他

目 標	<ul style="list-style-type: none"> 世界の姿、日本の姿をみるのに必要な地理的事象を理解する。また、地図、資料の活用ができる技能を磨く。 地理的な見方や考え方の基礎を培いつつ、身近な地域や都道府県、日本の諸地域などを多面的・多角的に捉える力を養う。 歴史的事象の学習を通して、時代を大きく捉える見方・考え方を身に付ける。また、各時代の政治のしくみ、人々の生活、文化を様々な角度から捉えられる力を養う。 自ら課題を設定し、自ら調べ、課題を解決していく力を身に付ける。 		
学習のねらい	<p>（地理的分野）</p> <ul style="list-style-type: none"> 地球儀や地図を活用して、世界的視野からみた国土の位置と領域に関する特色を多面的・多角的に追究できる。 日本地図を活用して、47都道府県の位置と名称や日本の地域区分を捉えることができる。 都道府県の地域調査を始めるにあたって、県を調べる際の地域調査の一般的な方法や手順を理解する。 市町村規模の地域や都道府県規模の地域の調査と比較しながら、国家規模の地域を調査する際の一般的な方法を身に付ける。 わが国の地域的特色を「自然環境」「人口」「地域間の結びつき」「生活文化」「資源・産業」の五つの面から考察し、わが国がかかえる社会的課題を理解する。 世界的視野からみた日本の地域的特色と日本全体の視野からみた諸地域の特色を考察する。 <p>（歴史的分野）</p> <ul style="list-style-type: none"> 中世から近世までの大きな時代の流れを捉えさせ、それぞれの時代の特色を多面的・多角的にとらえることができる力を培う。 各時代の歴史的事象を説明することができ、その際適切に資料が活用できる力を身に付ける。 特に近世から近代の日本の歴史を、世界の歴史的变化と並行し、連動して捉えることができる柔軟性を養う。 歴史的事象の中から、地理的な内容とも関連させながら課題を設けて調べることができる力を養う。またその課題を解決できる力を身に付ける。 		
定期考査	出題方針	授業で学習した内容、使用している副教材の内容から出題する。資料を用いて考え、自分の言葉で表現する力を多く問う。	
	(予定)	第2回考査	世界の姿 ・ 人々の生活と環境 世界の古代文明と宗教のおこり
定期考査	(予定)	第3回考査	世界のさまざまな地域① ・ 古代の日本
		第4回考査	世界のさまざまな地域② ・ 中世の日本
		年度末考査	世界のさまざまな地域③ ・ 中世の日本
評価の観点・評価の方法	<p>① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>上記3項目について、授業への取組（ノート・発表等）、自主学习、レポート、単元テスト、定期考査の結果で総合的に評価する。</p>		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)	<p>様々な出来事や課題を図や資料、グラフなどから考え、理解していく力をつけていきましょう。また、知識の定着だけではなく、自分の言葉で説明できる力や問題に何度も挑戦する力をつけていきましょう。</p>		

年間授業計画表 (45分授業)

学期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	(i) 世界と日本の地域構成 ア 世界の姿	7	<ul style="list-style-type: none"> 世界の国々 地球の姿 (三大洋、六大陸・州) 緯度と経度 地球儀と世界地図の違い
	5	イ 日本の姿	7	<ul style="list-style-type: none"> 世界の中での日本の位置 時差でとらえる日本の位置 日本の領域とその特色 都道府県と県庁所在地
	1	歴史へのとびら	8	<ul style="list-style-type: none"> 歴史学習の基礎知識 時期や年代の表し方 時代の移り変わりのとらえかた
	2	古代までの日本	25	<ul style="list-style-type: none"> 人類の出現と進化 文明のはじまり 縄文時代の暮らしと弥生時代の暮らし 律令国家への歩み 奈良時代の人々の暮らし 平安京と律令国家の変化
	6			
	7	(ii) 世界のさまざまな地域① ウ 人々の生活と環境 世界の諸地域 《第2回考査》	16	※アジア、ヨーロッパ、アフリカ州に関して、生活の様子を把握できる地理的事象を考察する。 <ul style="list-style-type: none"> 自然環境 産業と文化 地域的課題
	9	3 中世の日本①	14	<ul style="list-style-type: none"> 鎌倉幕府の成立 武士と民衆の生活 鎌倉時代の文化と宗教
	10	エ 世界のさまざまな地域② 《第3回考査》	19	※北アメリカ、南アメリカ、オセアニア二州に関して、生活の様子を把握できる地理的事象を考察する。 <ul style="list-style-type: none"> 自然環境 産業と文化 地域的課題
	11	4 中世の日本②	20	<ul style="list-style-type: none"> モンゴル帝国とユーラシア世界 南北朝の動乱と室町幕府 東アジアとの交流 産業の発達と民衆の生活 応仁の乱と戦国大名 室町文化とその広がり
	12	5 近世の日本① 《第4回考査》	14	<ul style="list-style-type: none"> 中世ヨーロッパとイスラム世界 ヨーロッパ世界の拡大 織田信長・豊臣秀吉の統一事業
後期	1			
	2			
	3	《年度末考査》 オ 世界のさまざまな地域の調査	6	<ul style="list-style-type: none"> 適切な主題を設定して、調査発表をする学習
総時間数			136	

教科名		年間授業時数	学年
数学		175	1
授業形態	指導者名		
一斉授業	金谷久美子、松本拓磨		

教科書(発行所)	新しい数学1	(東京書籍)
教科書以外の教材(発行所)	体系数学1 代数編	(数研出版)
	体系数学1 幾何編	(数研出版)
	体系問題集1 代数編 発展 完成ノート	(数研出版)
	体系問題集1 幾何編 発展 完成ノート	(数研出版)

目 標	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。</p> <p>(3) 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。</p>		
学習のねらい	<p>1 「数と式」領域</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的な場面を通して、正の数と負の数について理解し、その四則計算ができるようにするとともに、正の数と負の数を用いて表現し考察することができるようにする。 文字を用いて数量の関係や法則などを式に表現したり式の意味を読み取ったりする能力を培うとともに、文字を用いた式の計算ができるようにする。 方程式や不等式について理解し、一元一次方程式、連立二元一次方程式や不等式を用いて考察することができるようにする。 <p>2 「図形」領域</p> <ul style="list-style-type: none"> 観察、操作や実験などの活動を通して、見通しをもって作図したり図形の関係について調べたりして平面図形についての理解を深めるとともに、論理的に考察し表現する能力を培う。 観察、操作や実験などの活動を通して、空間図形についての理解を深めるとともに、図形の計量についての能力を伸ばす。 <p>3 「関数」領域</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的な事象の中から二つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、比例、反比例、一次関数の関係についての理解を深めるとともに、関数関係を見だし表現し考察する能力を培う。 		
定期考査	出題方針	教科書の内容、問題集を中心に出题する。	
	範 囲 (予定)	第2回考査	正の数と負の数、式の計算、方程式
		第3回考査	不等式、関数
		第4回考査	関数、平面図形(一部)
年度末考査		平面図形、空間図形	
評価の観点・評価の方法	<p>評価の観点は「知識・理解」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3項目とする。</p> <p>具体的な評価は、定期考査、授業への取り組み、小テスト、提出された課題の内容等から総合的に行う。</p>		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)	<p>予習については、教科書の内容をあらかじめ見ておくだけでも違います。予習をして授業に臨むようにしましょう。復習については、問題集を中心にその日に習った内容の問題をできるだけたくさん解いて自分のものにしていきましょう。授業には、しっかり集中して臨み、わからないことはその場で先生に質問するか、休み時間、放課後等を利用して質問にすることで、その日のうちに理解するように心がけましょう。ノートについては、黒板を写すだけでなく、自分で気づいたことや先生が説明した内容で重要だと思ったことは自分の言葉でしっかりと書き込んでおいて、後から確認して分かりやすいノートとなるように工夫してみましょう。</p>		

年間授業計画表(45分授業)

期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	正の数と負の数 加法と減法 乗法と除法 四則の混じった計算	3 5 5	<ul style="list-style-type: none"> 正の数、負の数の性質や関係を調べることができるようにする。 正の数、負の数の四則計算の意味を正しく理解し、計算ができるようにする。
	5	四則の混じった計算 章末問題 文字式	4 4 3	
	6	多項式の計算 単項式の乗法と除法 文字式の利用 章末問題	4 4 5 4	<ul style="list-style-type: none"> 多項式の加法・減法の計算や数と1次式の乗法の計算、単項式の乗法、除法の計算が正しくできるようにする。
	7	方程式とその解 1次方程式の解き方 連立方程式 方程式の利用 章末問題 《第2回考査》	2 4 5 4 4	<ul style="list-style-type: none"> 等式の性質を見だし、それにもとづいて方程式を変形して解くことができるようにする。 方程式を能率よく解くことができるようにする。 方程式を利用して、問題を解決することができるようにする。
	8	不等式の性質 不等式の解き方	3 3	<ul style="list-style-type: none"> 不等式の性質を見だし、それにもとづいて不等式を変形して解くことができるようにする。 不等式を利用して、問題を解決することができるようにする。
	9	不等式の利用 連立不等式 章末問題 変化と関数 比例・反比例とグラフ	4 3 3 2 7	
後期	10	比例・反比例の利用 1次関数とグラフ 1次関数と方程式 《第3回考査》	4 4 4	<ul style="list-style-type: none"> 関数的な見方や考え方で、2元1次方程式を見直すことができるようにする。
	11	1次関数の利用 章末問題 平面図形の基礎 対称な図形 図形の移動 《第4回考査》	10 7 4 4 3	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な事象の考察に、1次関数を活用することができるようにする。 線対称、点対称の意味を理解し、平面図形を対称性に着目して調べることができるようにする。
	12	作図 面積と長さ 章末問題	6 5 4	<ul style="list-style-type: none"> 角の二等分線などの作図の方法を理解し、作図することができるようにする。 さまざまな図形の面積や長さを求めることができるようにする。 空間図形を直線や平面の運動によって構成することができるようにする。 空間図形を平面上に見取図や展開図を用いて表現することができるようにする。 基本的な柱体、錐体の表面積と体積を求めることができるようにする。
	1	いろいろな立体 空間における平面と直線 立体のいろいろな見方 立体の表面積と体積 《年度末考査》	3 5 5 7	
	2	章末問題 1年生のまとめ	7 8	
		総時間数	175	

教科名	年間授業時数	学年
理科	136	1
授業形態	指導者名	
一斉授業	武下 晃慎	

教科書（発行所）	未来へひろがるサイエンス 1（啓林館）
教科書以外の教材（発行所）	実力練成テキスト1年（文理）

目 標	<p>自然の事物・現象にかかわり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のように育成する。</p> <p>(1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につけるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探求しようとする態度を養う。</p>		
学習のねらい	<p>[生命] 身近な生物についての観察・実験を通して、生物の調べ方の基礎を学習するとともに、生物の体のつくりやそのはたらきを理解し、生物の世界についての総合的な認識を深める。</p> <p>[地球] 大地の成り立ちと、変化に関する探究的な学習を通して、地表にみられる事物・現象と関連付けながら、絶えず活動し続ける地球の姿についての理解を深めるとともに、観察、実験を行うための基本的な技能の習得、科学的な探究に必要な思考力・判断力・表現力、主体的に学ぶ態度を養う。</p> <p>[物質] 身のまわりの物質に関する探究的な活動を通して、物質のもつ基本的な性質の理解を深めるとともに、観察、実験を行うための基本的な技能の習得、科学的な探究に必要な思考力・判断力・表現力、主体的に学ぶ態度を養う。</p> <p>[エネルギー] 身近な物理現象に興味をもち、探究的な活動を通して、光・音・力に関する基礎的・基本的な性質への理解を深めるとともに、規則性や関係性を調べる観察や実験における基礎的操作や技能を身につける。</p>		
定期考査	出題方針	教科書の内容を中心に、問題集、教材プリントなどから出題する。	
	範 囲 (予定)	第1回考査	岡山県学力学習状況調査を実施
		第2回考査	「生命」自然の中にあふれる生命 「物質」身のまわりの物質（問題集、実験・観察）
		第3回考査	「物質」身のまわりの物質 「エネルギー」光・音・力による現象（問題集、実験・観察）
		第4回考査	「エネルギー」光・音・力による現象 「地球」活きている地球（問題集、実験・観察）
年度末考査	「地球」活きている地球 1年間のまとめ（問題集、実験・観察）		
評価の観点・ 評価の方法	<p>○評価の観点は、自然事象への知識理解と科学的に探究するための技能、科学的に探究するために必要な思考・判断・表現、主体的に自然の事象に関わる態度の3項目とする。</p> <p>○評価の方法は、学習のまとめりごとの記述内容と定期考査、授業への取り組みのようす、課題の提出などをもとに、総合的に行う。また、自己評価も必要に応じて取り入れる。</p>		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)	<p>理科の学習は、自然の事物・現象のなかに隠れている「理」について学んでいく学問です。日常生活で身のまわりのことに対して、「なぜだろう」と考えながら注意して観ること、自分の意見を積極的に述べたり、友だちの意見にも耳を傾けながら現象について考えたりすることが必要です。また、実験・観察を通して得られたことを図やグラフを書いて事実と合うように考察し発表する態度を身につけることも大切です。</p>		

年間授業計画表

期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	自然の中にあふれる生命 生物のなかま分け	8	○校庭や学校周辺の生物の観察を通し、いろいろな生物がさまざまな場所に生活していることを見いだして理解するとともに、基本的な観察技能、観察記録のしかたを身につける。 ○生物の共通点と相違点に着目しながら、分類についての基礎を身につける。
	5	「生命」いろいろな生物とその共通点 単元導入 学ぶ前にトライ！ 1章 植物の特徴と分類 2章 動物の特徴と分類	(24) 1 10 11	○身近な植物の外部形態の観察を行い、共通点や相違点を見だし、植物の体の基本的なつくりを理解するとともに、その共通点や相違点で植物を分類できることを理解する。 ○植物に対する興味・関心を持ち、植物を観察するときどのような点に着目すればよいかを考える力を身につける。
	6	力だめし、学んだ後にリトライ！	2	○身近な動物の外部形態の観察を行い、共通点や相違点を見だし、動物の体の基本的なつくりを理解するとともに、その共通点や相違点で動物を分類できることを理解する。 ○動物に対する興味・関心を持ち、動物を観察するときどのような点に着目すればよいかを考える力を身につける。
		「物質」身のまわりの物質	(37)	
	7	単元導入 学ぶ前にトライ！ 1章 いろいろな物質とその性質 2章 いろいろな気体とその性質 3章 水溶液の性質 4章 物質のすがたとその変化	1 9 8 8 9	○身のまわりの物質の性質をさまざまな方法で調べ、物質には密度や加熱したときの変化など固有の性質と共通の性質があることを理解する。 ○実験器具の操作、記録の仕方などの技能を身につける。 ○気体を発生させてその性質を調べる実験を行い、気体の種類による特性を理解する。 ○気体を発生させる方法や捕集法などの技能を身につける。
	8 9	力だめし 学んだ後にリトライ！	2	○物質が水に溶ける際の水溶液の均一性を粒子のモデルで理解する。 ○水溶液から溶質を取り出す実験を行い、その結果を溶解度と関連づけて理解する。
	10			○物質の状態変化についての観察、実験を行い、状態変化によって物質の体積は変化するが質量は変化しないことを理解する。 ○物質の融点や沸点を境に状態が変化することや沸点の違いによって物質の分離ができることを見いださせる。
		「エネルギー」光・音・力による現象	(33)	
	11	単元導入 学ぶ前にトライ！ 1章 光による現象 2章 音による現象 3章 力による現象	1 11 8 11	○光の反射や屈折の実験を行い、光が水やガラスなどの物質の境界面で反射、屈折するときの規則性を見いだす。 ○凸レンズのはたらきについての実験を行い、物体の位置と像の位置および像の大きさの関係を見いだす。
	12	力だめし 学んだ後にリトライ！	2	○音についての観察、実験を通して、音は物体が振動することによって生じ空気中などを伝わること、音は波として約340m/sの速さで伝わること、音の高さや大きさは発音体の振動に関係することを見いだす。
後期	1			○物体に力をはたらかせる実験を行い、物体に力がはたらくと物体を変形させる、物体の運動のようすが変わる、物体を支えることを見いだす。 ○力は大きさと向きと作用点によって表されることを理解する。 ○2力のつり合いの実験を行い、1つの物体にはたらく2力がつり合う条件を理解する。
		「地球」活きている地球	(34)	
	2	単元導入 学ぶ前にトライ！ 1章 身近な大地 2章 ゆれる大地 3章 火をふく大地 4章 語る大地	1 5 7 10 9	○地形などの観察を通して、大地の成り立ちなどを理解する。 ○観察器具の基本的な扱い方などを身につける。 ○地震計の記録から地震のゆれの特徴を理解し、記録の分析により地震のゆれの伝わり方の規則性を見いだす。 ○地震の原因などをプレートの動きと関連付けて理解する。
	3	力だめし 学んだ後にリトライ！	2	○さまざまな火山の活動を調べさせ、それらの様子はマグマの性質が深く関係していることを考察する。 ○マグマからできる火成岩の特徴を、成因と関連付けて理解する。
				○地層の重なり方や広がり方の規則性を捉え、構成する岩石や化石をもとに、地層が堆積した時代や当時の環境を推測することを通して、地層のでき方を理解する。 ○プレートと火山活動や地震などとの関連を総合的にとらえ、大地からの恵みや災害について理解する。
		総時間数	136	

教科名		年間授業時数	学年
音楽		58.5	1
授業形態		指導者名	
前期：一斉授業 後期：一斉授業		川上由紀・長岡佐和	

教科書（発行所）	中学生の音楽1 (教育芸術社) 中学生の器楽 (教育芸術社)
教科書以外の教材（発行所）	音楽のハーモニー1年 (正進社)

目 標	音楽活動の喜びや感動を体験させるとともに、進んで音楽活動をしよ うとする意欲を養う。		
学習のねらい	<p>1 歌唱 豊かな響きを工夫し、言葉の抑揚やリズムを生かして美しい発音で歌う。 他の声部や、全体の響きに気をつけて合唱する。</p> <p>2 器楽 楽器の基礎的な奏法を身につけ、美しい音色を工夫して演奏する。 伴奏の形やとけ合いを意識して合奏表現ができる。</p> <p>3 創作 歌詞や楽器にふさわしい旋律を創り、表現する。 リズムフレーズや短い旋律を創る。</p> <p>4 鑑賞 楽曲の雰囲気や曲想と諸要素の働き、声や楽器の音色と組み合わせに よる響きと効果、我が国及び諸外国の民族音楽の特徴などを感じ取っ て聴く。</p>		
定期考査	出題方針	教科書の内容を中心に、音楽のハーモニー、プリントなどから出題す る。	
	範 囲 (予定)	第1回考査	無し
		第2回考査	校歌、既習曲、春、魔王、越天楽、日本・アジアの民 謡、リコーダー奏法・運指
		第3回考査	無し
		第4回考査	無し
年度末考査		浜辺の歌、赤とんぼ、六段、既習曲、リコーダー運指	
評価の観点・ 評価の方法	<p>○評価の観点は、知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度 の3項目とする。</p> <p>○具体的な評価は、授業への取り組み、ノート、授業プリントなどの提出物の内 容、歌のテスト、リコーダーのテストなどを総合的に行う。</p>		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、 授業の受け方、ノート の取り方など)	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の世界は、範囲も種類も広く、日常親しんでいる音楽も多岐にわ たって様々です。いろいろな種類の、いろいろな様式の音楽に興味、 関心をもち、知識・技能などを意欲的に学んでいきましょう。 ・歌唱、器楽及び創作の活動を、単に楽譜上の記号を音に変換する行為 にしてしまわず、歌ったり、演奏したりすることが、自分の生活の中 での驚き、発見、喜び等を思い起こすものになるように積極的に活動 していきましょう。 ・基礎、基本を身に付け、個々の目標や課題を見つけて楽しく音楽にか かわっていきましょう。 ・毎時間忘れものをせず、提出物（ノート、プリント）を必ず出すよう にしてください。 		

年間授業計画表 (45分授業)

学期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	思いを込めて歌おう。 ・ We'll Find The Way ・ その先へ ・ My Voice ・ 校歌	8	希望を胸に、明るくおおらかに歌う。 互いの歌声の響き合いを楽しむ。
	5	曲の構成を感じ取って歌唱表現を工夫しよう。 ・ 主は冷たい土の中に 曲想を感じ取って器楽表現を工夫しよう。 ・ 聖者の行進	6	曲のまとまりやハーモニーの変化を感じ取る。 パートの役割や旋律の重なり方の特徴を感じ取る。
	6	音楽の特徴に注目して聴こう。 ・ 和声と創意の試み「四季」より春	7	標題を手がかりに、音楽の内容や音楽による表現のすばらしさを感じ取る。曲の構成に気をつけながら曲想の変化を感じ取る。
	7	曲想やパートの役割を感じて歌唱表現をしよう。 ・ 朝の風に ・ 君をのせて	7	曲のまとまりやハーモニーの変化を感じ取る。 パートの役割や旋律の重なり方の特徴を感じ取る。 歌詞の内容を感じ取り拍の流れにのって歌う。
	8	曲想と音楽の構造との関わりを理解して聴こう。 ・ 魔王 日本に古くから伝わる合奏に親しみ、その魅力を味わおう。 ・ 雅楽『平調 越天楽』		旋律と伴奏が一体となった曲想を感じ取る。 劇的な音楽の内容や、曲想の変化・表現の効果などを感じ取る。 日本の伝統音楽に使われる楽器の音色の美しさを味わう。
	5	リコーダーに親しもう。 この教材は器楽の教科書のリコーダー曲を継続して行う。		アルトリコーダーの基本的な奏法を身に付け正しいリズムと音程で簡単な楽曲を演奏する。
	9	日本の歌のよさや美しさを感じ取って表現をしよう。 ・ 浜辺の歌	6	歌詞と音楽を形づくっている要素との関わりを感じ取る。 速度や強弱の変化を生かした表現する。
	後期	10	・ 赤とんぼ ・ 歌い継ごう日本の歌	4
11		日本の民謡やアジアの諸民族の音楽の特徴を感じ取ってその魅力を味わおう。 ・ 日本の民謡 ・ 生活や社会の中の音楽 ・ アジアの諸民族の音楽 ・ ソーラン節	5	日本の民謡やアジアの諸民族の音楽の特徴をとらえることで、音楽の多様性を感じ取り、そのよさや美しさを味わう。
12		箏曲の特徴を感じ取って、その魅力を味わおう。 ・ 箏曲『六段』	4	楽器の音色や独特な奏法を味わい、日本の楽器の音楽に親しむ。
1		曲の構成や曲想の変化を生かして歌唱表現を工夫しよう。 ・ Let's Search For Tomorrow ・ 心の通う歌	7	全体の響きや各声部を聞きながら他者と合わせて歌う技能を身につける。
3		・ 卒業式に向けて	4	各声部の役割を生かし、全体の響きに調和させて合唱をする。
		総時間数	58	

教科名	年間授業時数	学年
美術	58.5	1
授業形態	指導者名	
一斉授業	森 邦生	

教科書（発行所）	美術1 美術との出会いと広がり（日本文教出版）
教科書以外の教材（発行所）	美術資料（秀学社）

目 標	<p>描く活動とつくる活動を経験することで創作する楽しさを味わう。自然や身近なものを観察する力、自分がそこに何を感じるかを重視し、それをどのように表現するか考えられる基礎的技能を学ぶ。また鑑賞を通して自然や美術作品についての理解や見方を広げ、自身の創作活動に生かせるようにする。</p>		
学習のねらい	<p>1 絵画・彫刻などの活動を通して 自然や身近なものを観察し、形や色彩や光がつくり出す美しさをとらえ表現することを学ぶ。また対象を深く見つめることで、ものの見え方感じ方を味わい、自分らしい感じ方・個性を表現する。</p> <p>2 デザイン・工芸などの活動を通して 形や色彩、材料、光がもたらす効果や感情を理解し、機能的な生かし方を考え、美しく構成することを学ぶ。その中で自分が表現したいイメージを発想し構想を練り、作り方、意図に応じた材料や用具の生かし方などの基礎的技能を身に付ける。また意図に応じて工夫して表現することを学ぶ。</p> <p>3 鑑賞 美術作品や自然、生活の中の造形などの鑑賞に親しみ、よさや美しさを味わい、造形的な視点を養う。またクラスメイトの作品に対して、心情や表現の意図、工夫について考え、自身の表現との違いに興味を持ち・認め・楽しむことを学ぶ。</p>		
定期考査	出題方針	授業で制作した内容や配布プリント、教科書・美術資料から出題する。	
	範 囲 (予定)	第1回考査	なし
		第2回考査	鉛筆の技法、色の属性、絵の具の性質・技法、鑑賞問題
		第3回考査	なし
		第4回考査	なし
		年度末考査	色の属性、レタリング、絵文字、実技問題
評価の観点・ 評価の方法	<p>○評価の観点は、造形的な知識及び技能の習得、創造的な思考・判断・表現の能力、創作活動に主体的に、また粘り強く取り組む態度の3項目とする。</p> <p>○準備物や授業での態度・真剣に創意工夫しようとする姿勢・見通しを持った創作活動など制作過程での観点別達成度、作品の出来映え、感想文による鑑賞能力の3つのポイントを統合して評価する。</p>		
先生からアドバイス	<p>表現することに「上手」「下手」はありません。技術的に優れていればより豊かな表現ができますが、それだけで「作品の魅力」につながらないところが美術の素晴らしく、また面白いところです。</p> <p>「うまく描くこと」よりも「自分が感じたことを表現しようとする姿勢」が大切です。純粋な気持ちで目の前の真っさらな紙に臨みましょう。</p> <p>授業ではのびのびと制作できるように、また結果よりも制作のプロセスを楽しむことを主眼にしています。何よりも表現することの楽しさを味わって欲しいです。</p>		

年間授業計画表 (45分授業)

学期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	「オリエンテーション」	1	・一年間の学習のイメージをつかんでもらう。
		「鉛筆デッサン」(絵画) ・鉛筆の削り方と描画技法を学ぶ。	1	・日常使い慣れた鉛筆から絵画の様々な技法を学ぶ。 ・石膏の形・光・陰影をつかみ、立体感の表現を学ぶ。
		「色を感じて」(鑑賞・絵画) ・色の属性や働き、三原色について学ぶ。	1	・色の性質、感情にもたらす効果を理解する。
	5	「絵の具の性質と混色」	2	・絵の具の種類と性質、アクリル絵の具を理解する。 ・混色と水分量のコントロールの仕方を実践する。
		「色と形で表現」(鑑賞・絵画) ・形の学習 ・視覚化に挑戦	2	・様々な形が表す感情や効果を学ぶ。 ・五感で感じるものを、形と色を工夫して表現する。
	6	「絵の具の技法」(絵画) ・身近な風景を題材にした水彩画の制作	4	・絵の具の様々な技法を学ぶ。 ・絵の具の特徴・技法を活かした風景画を制作する。
	7	「レタリング」(デザイン) 《第2回考査》	2	・漢字の多様な書体を鑑賞し、記録媒体と目的によってデザインされていることを感じ取る
	8	「文字のデザイン」(デザイン) ・絵文字の制作	5	・文字の形や意味からイメージを広げ絵文字を制作する。
	9			
後期	10	「粘土で立体造形」(彫塑) ・手を題材に立体作品を制作する。	13	・自分の手をスケッチし、形や質感・量感などの特徴をとらえ、材料・用具を工夫して表現する。
	11			
	12	「伝統工芸を知る」(鑑賞) ・箱根寄木細工とその制作過程を鑑賞する。	1	・伝統工芸のよさや美しさを感じるとともに、鑑賞され使われるもの、受け継がれているものとしての価値を学ぶ。
	1	「木作品を装飾しよう」(デザイン・工芸) ・技術科で制作した木作品に合わせ、ウッドシートを使い、自分らしい色や形を考えて構成し制作する。	15	・木作品を飾る形をイメージし、構成を工夫する。 ・ウッドシートの特性を理解して、加工方法や用具などを適切に考えて制作する。 ・切り抜き作業、木作品への接着、ニス塗りまで粘り強く、また見通しを立てて制作することを学ぶ。
	2	《年度末考査》		
	「chromebook のカメラを使ったデザイン」(デザイン)	4	・身近なものを観察し、形の面白さを発見し撮影する。 ・撮影した素材をデザイン制作に活用する。	
3	「1年のまとめ課題」(絵画)	7.5	・1年の学習のまとめとなる絵画s作品を制作する。	
		総時間数	58.5	